

◎注意事項をよくお読み下さい



りそな マーケットフラッシュマンスリー & アジア・新興国FXフラッシュ

(2021年7月号)

2021/06/30

りそなホールディングス 市場企画部
りそな銀行 国際事業部

◆ 今月の相場見通し

※各マーケットコメントは6月30日(水) 9:00現在
※休日の実績は前営業日

		6月29日現在 (矢印は6月末比)	7月の予想
USD	ドル・円 (円)	↗ 110.53	↘ 108.00 ~ 111.50
	昨年来の円安巻き戻しもあり一旦ドル円は下落を予想		
EUR	ユーロ・ドル (ドル)	↘ 1.190	↘ 1.17 ~ 1.21
	ユーロ・円 (円)	↘ 131.48	↘ 129.50 ~ 132.50
	変異株拡大への懸念とECBの緩和策維持がユーロを下押し		
GBP	ポンド・ドル (ドル)	↘ 1.384	↘ 1.35 ~ 1.40
	ポンド・円 (円)	↘ 152.93	↘ 145.00 ~ 155.00
	デルタ株拡大や金融緩和維持で売られやすいが下値は限定的		
AUD NZD	豪ドル・円 (円)	↘ 83.03	⇒ 81.00 ~ 85.00
	NZドル・円 (円)	↘ 77.29	⇒ 78.00 ~ 82.00
	クロス円の円安基調は一服し両通貨ともに横ばい圏を予想		
株式 相場	日経平均 (円)	↘ 28,813	⇒ 27,500 ~ 29,800
	インフレトレードによる上昇が一服、供給制約や変異株が重石		
	NYダウ (ドル)	↘ 34,292	⇒ 33,000 ~ 35,000
長期 金利	グロース株シフトでナスダック総合は上昇もNYダウは上値重い		
	日本 (%)	↘ 0.062	⇒ 0.02 ~ 0.10
	日銀の国債買入減額は金利上昇圧力も米金利連動で上昇余地乏しい		
	米国 (%)	↘ 1.470	⇒ 1.40 ~ 1.60
	供給制約に伴う景気回復の遅れやデルタ株への懸念で上昇しづらい		

◆ 今月の注目ポイント

米経済指標から金融政策を先読みする相場展開が続く

テーマ	注目度	今月の注目ポイント
景気 動向	○	【コロナデルタ株の感染拡大】英国や欧州などを中心に多数の国で感染力が非常に強いとされるデルタ株の感染拡大がみられる。各国が再度行動制限の強化に動いた場合、景気回復に水を差すこととなり注意が必要であろう。
金融 政策	◎	【経済指標とFOMC】物価の伸びが引き続き高い場合、早期の金融引き締め観測が高まりやすい。また雇用についても6月中旬以降、雇用を抑制しているとされる失業給付の拡充策が複数の州で停止されており、週次で公表される雇用指標の注目度は高い。7月28日のFOMCではテーパリング議論の進捗が注目される。
政治	◎	【米国インフラ投資計画と債務上限】米国のインフラ投資計画は6月後半に超党派とバイデン政権の間で大筋の合意がなされたが、財源についての議論や各党内での調整は残っている。また、7月末に現行の債務上限の停止措置が失効することから両党で議論がなされるであろう。合意に至らない場合、米国のデフォルトリスクが高まる可能性に注意。

◆ 新興国通貨見通し

人民元・円	↘ 16.6 ~ 17.3	レアル・円	↗ 21.5 ~ 23.5
バーツ・円	↘ 3.32 ~ 3.50	メキシコペソ・円	↗ 5.50 ~ 5.75
ルピア・円	↘ 0.74 ~ 0.78	ルーブル・円	↗ 1.49 ~ 1.55
ルピー・円	⇒ 1.47 ~ 1.54		

◆ 今月の重要日程

1日(木) 日 日銀短観〈6月調査〉	15日(木) 中 GDP (21/2Q)
1日(木) 中 共産党創設100周年	16日(金) 日 日銀金融政策決定会合
2日(金) 米 6月雇用統計	22日(木) 英 ECB理事会〈結果発表〉
4日(日) 日 東京都議選投票日	23日(金) 日 東京オリンピック開会式
7日(水) 米 FOMC議事録 (6/15,16)	28日(水) 米 FOMC (結果発表)
13日(火) 米 6月CPI	29日(木) 米 GDP速報値 (21/2Q)

◎注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

© 注意事項をよくお読み下さい

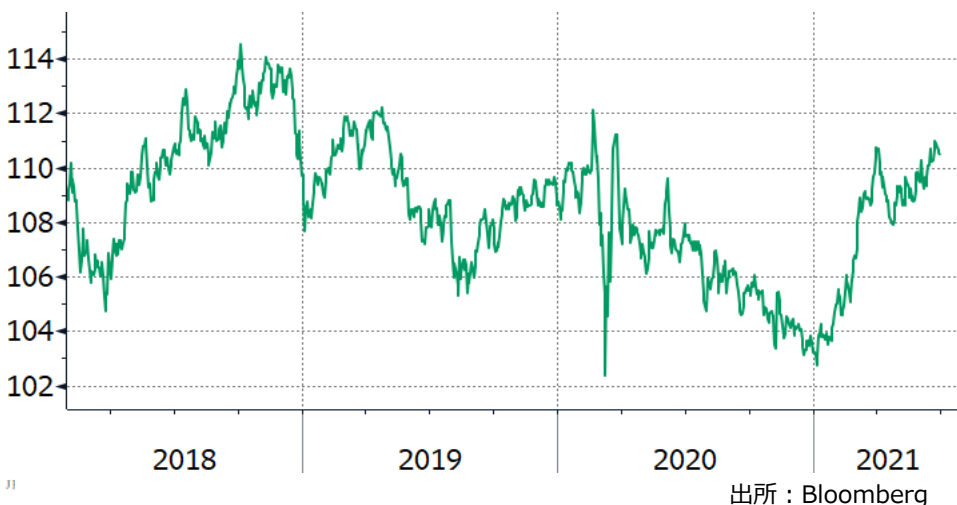


りそな マーケットフラッシュマンスリー & アジア・新興国FXフラッシュ

(2021年7月号)

◆ 今月の相場見通し① 為替 (ドル・ユーロ)

ドル 円



米ドル円



ドル円は下落

108.00 – 111.50円

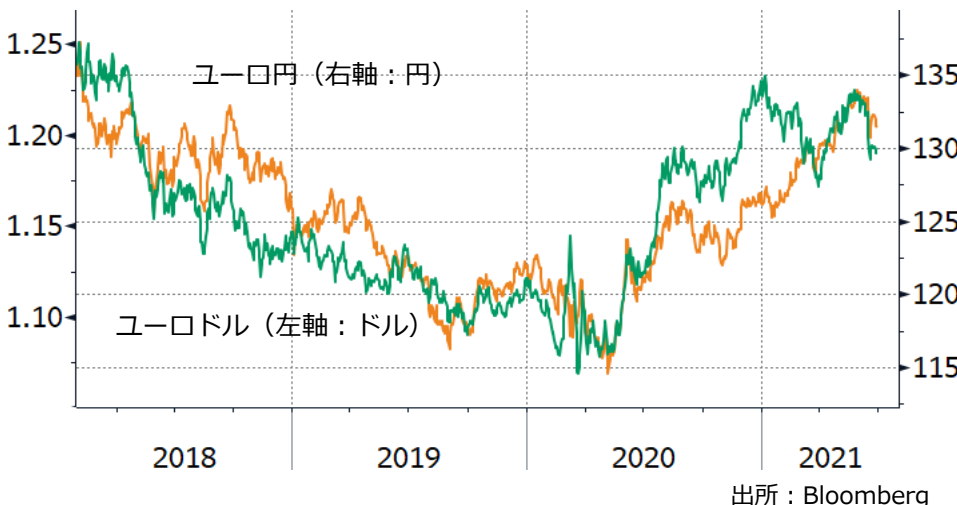
昨年来の円安巻き戻しもあり一旦ドル円は下落を予想

6月のドル円相場はFOMCのタカ派姿勢を受けてのドル高進行につれて110円台に上昇、その後の高官発言でトーンがやや抑えられたこともありドル高は一部巻き戻されたものの、円安基調が続いたことでドル円は111円台に乗せる場面もみられた。

目先はドル高、円安ともに持続性はないとみており、7月のドル円相場は下落を予想する。ドル高についてはFOMCで示されたドットチャートによる早期利上げ観測の高まりが要因となっているが、実現には経済の順調な回復が必要。月初の雇用統計等が上振れれば一時的に上値を試す可能性はあるが、経済の見極めにはこの先数か月分の指標をみる必要があるだろう。一方昨年来続く円安基調については、要因の1つには資源高による交易条件の悪化があるように思われる。足元で金属価格の上昇は一服、原油もWTIベースで70ドル台後半へのさらに上値を切り上げる可能性は低いとみている。円安基調もそろそろ一服する可能性。

また7月は過去10年の平均騰落率が▲0.86%と12ヶ月で最も下落率が大きく、こうした季節性についても意識はしておきたい。

ユ ー ロ



ユーロドル



ユーロドルは下落

1.17 – 1.21ドル

ユーロ円



ユーロ円は下落

129.50 – 132.50円

ユーロドル、ユーロ円はともに下落を予想

6月のユーロは、対ドル、対円ともに下落した。ロシアの米国からの制裁に対抗したドル建て資産売却を材料にユーロは対ドルで一時買われたが、ハト派のECB理事会を受けて下落した。その後、予想外にタカ派のFOMCを受け、ユーロドルは一段安になり1.2を割りこんだ。FOMC後も下げが止まらず、ユーロドルは1.18台まで下落し、その後もみ合いとなった。

7月のユーロは対ドル及び対円ともに下落と予想する。足元、ユーロ圏経済は回復に向かい、ワクチン接種との進展とワクチンパスポートの運用も回復を後押しするとみられる。一方で、新型コロナウイルスのデルタ株の感染拡大は不確定要素となりうる。変異株の感染拡大により行動制限が再強化された場合には、家計と企業のマインドにマイナス影響を及ぼし、このような状況ではECBは金融緩和長期化するとの見方も高まりやすい。一方、月初の米国雇用統計で上振れがみられた場合は、米国金融引き締め期待からドル高を通じてユーロドルは下落しやすいとみる。

© 注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

© 注意事項をよくお読み下さい

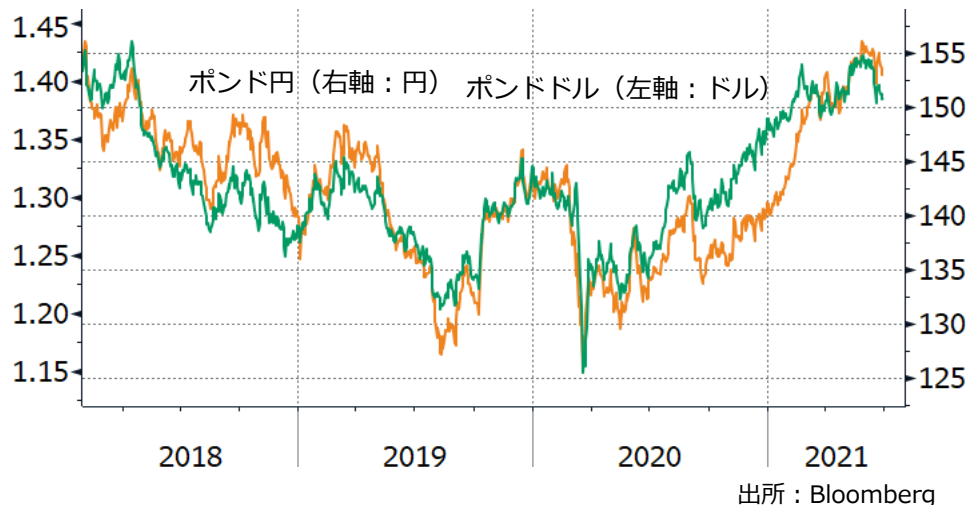


りそな マーケットフラッシュマンスリー & アジア・新興国FXフラッシュ

(2021年7月号)

◆ 今月の相場見通し② 為替 (ポンド・豪ドル・NZドル)

ポ ン ド



ポンドドル



ポンドドルは下落

1.35- 1.40ドル

ポンド円



ポンド円は下落

145.00 - 155.00円

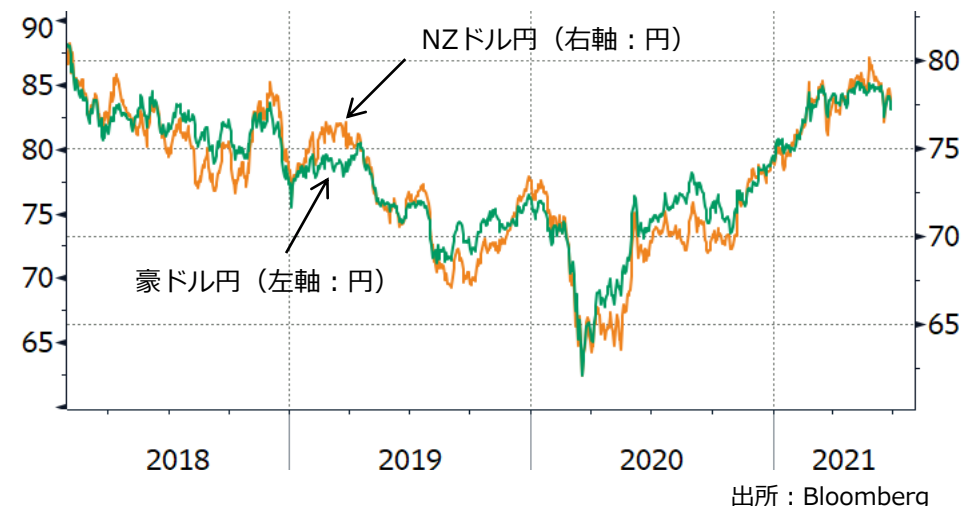
ポンドドル、ポンド円はともに下落を予想

6月のポンドは対ドル、対円ともに下落、コロナ感染再拡大が相場の重石でポンドドルは徐々にレンジを切り下げ、FOMC後には1.38を割れる場面もあった。その後、6/24のBOEを前にポンドは一部買い戻されたが、BOEは予想ほどのタカ派ではなく月末にかけ再び下落した。

7月のポンドはドル及び円に対して小幅下落を予想。英国ではデルタ変異株の感染が急増しており、ロックダウンの完全解除が当初の6/21予定から7/19に延長された他、一部の国では英国からの入国制限も検討されている。また、英国でもインフレ率の高まりはみられるがBOEは一時的なインフレを容認するとみられ、金融引き締め観測が後退からポンドは売られやすい。

一方で、ワクチン接種も進む中でコロナの死者数は低水準に留まっており、7/19には現在のところ予定通りがロックダウンが完全に解除される見通し。感染再拡大による英国経済とポンドに対する影響は限定的だろう。ポンドは引き続き軟調に推移しやすいが、下値は限定的とみている。

豪 ド ル ・ N Z ド ル



豪ドル円



豪ドル円は上昇

81.00 - 85.00円

NZドル円



NZドル円は上昇

78.00 - 82.00円

豪ドル円、NZドル円はクロス円の円安基調は一服し横ばいを予想

6月のオセアニア通貨はFOMC後のドル高を受けて大きく下落し、対円でもレンジを切り下げた。その後ドル高の動きが巻き戻され豪ドル円、NZドル円とも下げ幅を縮小したものの、月末にかけては新型コロナウイルスの感染拡大に伴いシドニーで規制強化されたことや、東南アジア諸国で感染が急速に拡大していることを受けリスク選好度が低下し、再び下落基調となった。

目先はドル高基調は一服しやすく、また豪州内のコロナ感染拡大による影響も一服することで、オセアニア通貨は底堅く推移するとみる。一方で商品高一服により昨年来続いたクロス円の円安基調は一服するとみられ、7月の両通貨の対円での動きはもみ合いと想定する。

7/6に開催される豪中銀会合が注目される。①3年YCCの対象銘柄の変更判断(2024年4月償還債から2024年11月償還債への変更するか否か)、②量的緩和の再延長等について議論するとしている。タカ派サプライズの場合は金融政策差で豪ドルが上値を試す可能性に留意。

© 注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

◎注意事項をよくお読み下さい

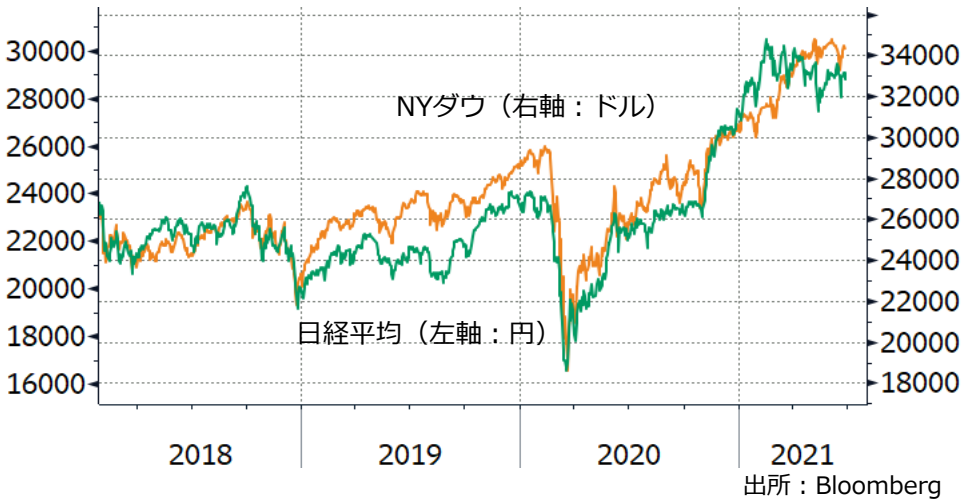


りそな マーケットフラッシュマンスリー & アジア・新興国FXフラッシュ

(2021年7月号)

◆ 今月の相場見通し③ 株式、長期金利

株 式 見 通 し



日経平均

⇒ 日経平均は横ばい

27,500 – 29,800円

日経平均は横ばいを予想

6月の日本株は、FRBの利上げ前倒し警戒から急落する場面もあったが、その後は底堅い推移となり、月末には月初の水準を概ね取り戻した。今月の日本株は上値の重い展開を予想。FRBがインフレが起きた場合には利上げを行うと市場が認識したことで、従来のインフレトレードによる上昇は鳴りを潜めつつある。また供給制約に伴う景気の足踏みや、デルタ株の広がりも株価に重石となりやすい。一方でワクチン接種が進み景気の底割れ懸念も大きく後退しつつあり、下値も限定的。

NYダウ

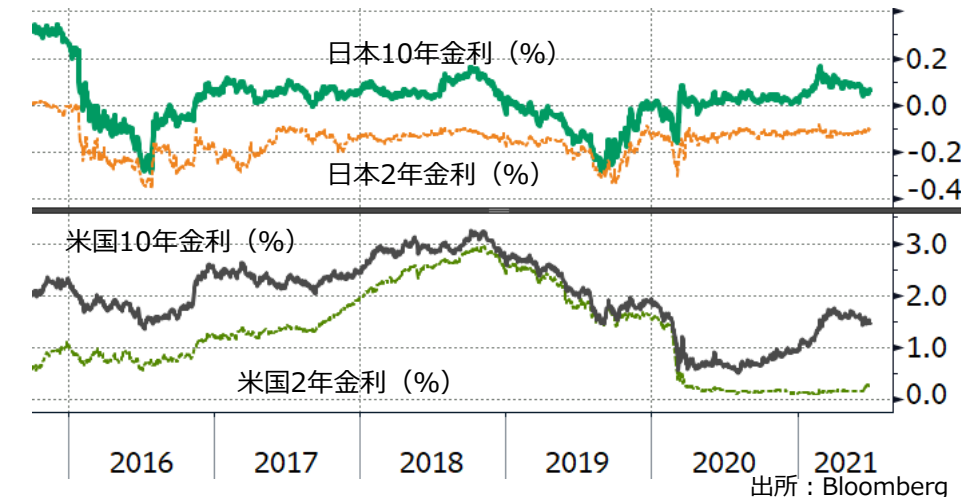
⇒ ダウは横ばい

33,000 – 35,000ドル

NYダウは横ばいを予想

ワクチン接種により経済の正常化が進む中で、引き続き米国の雇用・物価指標に注目。先月のFOMCでFRBのインフレに対するスタンスが従来よりタカ派的と受け止められたことで期待インフレが低下、金利も上昇しづらくなっていることからバリュー株からグロース株への再シフトが見られており、ナスダックやS&P500は底堅いが、ダウには重石。またデルタ株の広がりも景気敏感株比率の高いNYダウには重石となりやすく、上値の重い展開を予想。

長 期 金 利 見 通 し



日本国債10年

⇒ 金利は横ばい

0.02 – 0.10%

日本国債は金利横ばいを予想

6月は米金利の低下に連れ円金利も低下、その後も上昇しづらい展開となっている。一方、日銀による7月以降の国債買入スケジュールでは買入減額が示され、金利上昇圧力がかかりやすい。但し、米金利が低位で落ち着いた推移となる中、円金利が水準を上げ続けることは想定しづらく、国内金利についても引き続きレンジ内でのみみ合いとみる。

米国債10年

⇒ 金利は横ばい

1.40 – 1.60%

米国債は金利横ばいを予想

FOMCでのタカ派姿勢から短い年限の金利が上昇する一方で、むしろ利上げがインフレを抑制するとの見方もあり10年債は1.4%割れまで買われた。足元は供給制約に伴う景気回復の遅れや、デルタ株の広がりから金利上昇圧力に乏しく、今月レンジ推移継続とみる。引き続き雇用・物価指標や、FOMCでのテーバリング開始について具体的な示唆があるかは注目。一方7月末には現行の債務上限の停止措置が失効、両党の協議が難航した場合には金利上昇リスクも孕む。

◎注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

◎ 注意事項をよくお読み下さい



りそな マーケットフラッシュマンスリー & アジア・新興国FXフラッシュ (2021年7月号)

◆ 今月の相場見通し④ 新興国通貨 (アジア)

		6/29		7月の予想	6月のレビュー	7月の見通し
中国	人民元/円	17.09	⇩	16.6~17.3	ドル人民元は5月末に元高ピークの6.35台を付けた後は、中国人民銀行が外貨預金準備率引き上げ等の人民元高抑制とともれる措置を講じたことで、6月に入るとレンジを切り上げ。6/16の米FOMCでタカ派姿勢が示されるとドル高進行とともにドル人民元は6.49の高値をつけた。人民元円は17円台前半でのみ合いが続き月間で小幅に下落した。	当局の政策要因によって元高基調の転換が図られたものの、内需主導の経済強化を進めるうえで緩やかな元高は歓迎されるものであり、当局の姿勢は元安転換へと促すものではない。ドル人民元6.4台は今年に入ってから中心レンジで、当面はこのあたりが居心地よい水準とみる。その後年末にかけては米金融政策と中国経済リスクが意識されドル高人民元安の進行を見込んでいる。
	ドル/人民元	6.46	⇨	6.35~6.55		
タイ	バーツ/円	3.45	⇩	3.32~3.50	6月前半のドルバーツ相場は31バーツ台前半でのみ合いが続いたが、米FOMC後のドル高地合いで上昇に転じると、月末にかけてはタイを含む東南アジア諸国での感染動向の悪化からリスク回避でバーツは売られ、昨年5月以来の32バーツ台に乗せた。タイ中銀は6/23の会合で予想通り過去最低水準の0.50%の政策金利を据え置いた。	タイバーツは引き続き弱含みの展開を想定している。観光需要低迷による旅行収支の悪化でタイの経常収支は昨年末以降マイナス推移が続いておりバーツ相場の最大の重石。タイの新規感染者数は足元3千人/日を超え再び上昇傾向。目先感染動向が落ち着けば一旦バーツ安の動きは止まりやすいが、変異株への脅威は観光需要の長期低迷が想起され上値重くなりやすい。
	ドル/バーツ	32.04	⇨	31.5~32.8		
インドネシア	ルピア/円	0.763	⇩	0.74~0.78	ルピア相場は6月前半は底堅く推移しドルルピアは下値14,100ルピアをつけたものの、金融引締的な見通しが示された米FOMC後にドル高が進行すると14,300ルピア台にレンジを切り上げた。月末にかけて変異株拡大により悪化するインドネシア国内のコロナ感染状況が悪化が嫌気されじりじりとルピア安が進行した。	感染拡大が続く中で目先のルピア相場は弱含みとなりやすい。ワクチン接種率は初回接種でも10%強にとどまっており、感染鎮圧に向けた道筋は遠い。ただし、FOMC後に進行したドル高も、実際にFOMCがテーパリングを始めるにはまだ時間を要すると考えられ一方向の動きとはなりづらい。感染動向もピークをつけるとルピア安も限定的となろう。ドルルピアは徐々に上値が重くなるとみる。
	ドル/ルピア	14,485	⇨	14,300~14,700		
インド	ルピー/円	1.49	⇨	1.47~1.54	6月のドルルピー相場はFOMC後のドル高地合いで74ルピー台に上昇したが、その後の上値は限定的。インド国内のコロナ感染動向やや落ち着きを見せる中でルピー相場は底堅さを見せた。6/4のインド中銀会合では政策金利を据え置き、緩和的な政策スタンスが維持された。	7月のインドルピー相場は上昇（ドルルピーは下落）と予想。感染拡大が深刻化していた局面でもインドから資金退避を行う動きは限定的。短期的にはルピー相場が下押しされても、先行きの有望な市場展望を背景としてルピー相場は中期的には堅調さを維持している。世界的な資源高を受けて物価上昇率が高まっており、経済への悪影響とならないか懸念材料となる。
	ドル/ルピー	74.23	⇩	72.0~75.0		

◎ 注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

◎注意事項をよくお読み下さい



りそな マーケットフラッシュマンスリー & アジア・新興国FXフラッシュ

(2021年7月号)

◆ 今月の相場見通し⑤ 新興国通貨（中南米・ロシア）

		6/29		7月の予想	6月のレビュー	7月の見通し
ブラジル	レアル/円	22.30	➡	21.5～23.5	6月のブラジルレアルは、ドル、円に対してともに上昇。月初、ブラジルの経済成長率が上方修正され、ブラジルレアルも買われた。それ以降ブラジル中銀の利上げ期待や堅調なブラジル株式市場が支えになり、レアルは堅調に推移した。16日にブラジル中銀が利上げを行うと同時に、次回以降更なる利上げも示唆し、その後のレアルの追い風となった。	7月のブラジルレアルは引き続き上昇を予想。コロナ感染者が増加しているが、死者数は抑制されており、レアルへの影響は限定的とみる。一方、ブラジル中銀は物価高騰を制御するため、次回以降の会合でも再度利上げを実施する可能性が高く、レアルの上昇要因となろう。堅調な原油価格とブラジル株もレアルを後押しするだろう。
	ドル/レアル	4.96	➡	4.75～5.15		
メキシコ	ペソ/円	5.58	➡	5.50～5.75	6月のメキシコペソはドル、円に対してともに上昇。月初に、予想を下回った米雇用統計やメキシコ中間選挙で与党連合が過半数を占めたことを受け、ペソが買われた。その後、FOMCに向けてペソが下落し、タカ派のFOMCによるドル買いで一段安に。FOMC後も軟調に推移したが、米早期引き締め観測後退とメキシコ中銀の予想外の利上げで下げ幅を埋めた。	7月のメキシコペソは上昇を予想。足元メキシコの経済指標は良好で、特に輸出が堅調に推移している。今後米経済の回復に伴い、貿易収支の更なる改善が期待でき、ペソのサポート材料になるだろう。また、インフレ期待の高止まりと資本流出を防ぐために、メキシコ中銀が再度利上げを行う可能性がある。7月のペソは底堅い展開になるだろう。
	ドル/ペソ	19.82	➡	19.2～20.3		
ロシア	ルーブル/円	1.52	➡	1.49～1.55	6月のロシアルーブルは、対ドル、対円でともに上昇した。月初から原油価格の上昇を背景に、ルーブルは堅調に推移した。11日にロシア中銀は政策金利を上げたが、市場予想通りでルーブルの反応は薄かった。ルーブルはFOMCに向けて売られ、通過後も軟調に推移したが、原油高やドル高の一服から反発し、再び上昇に転じた。	7月のロシアルーブルは上昇すると予想。世界的な経済活動の回復で原油への需要は引き続き強く、底堅い原油価格はルーブルのサポート材料になるだろう。米ロ関係にやや不透明感はあるが、6月中旬に米露首脳会談を実施しており、更なる関係悪化の懸念は後退したと考える。足元のインフレを抑えるために、今後ロシア中銀が更なる利上げを行うかどうかは注目したい。
	ドル/ルーブル	72.77	➡	71.0～74.0		

◎注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

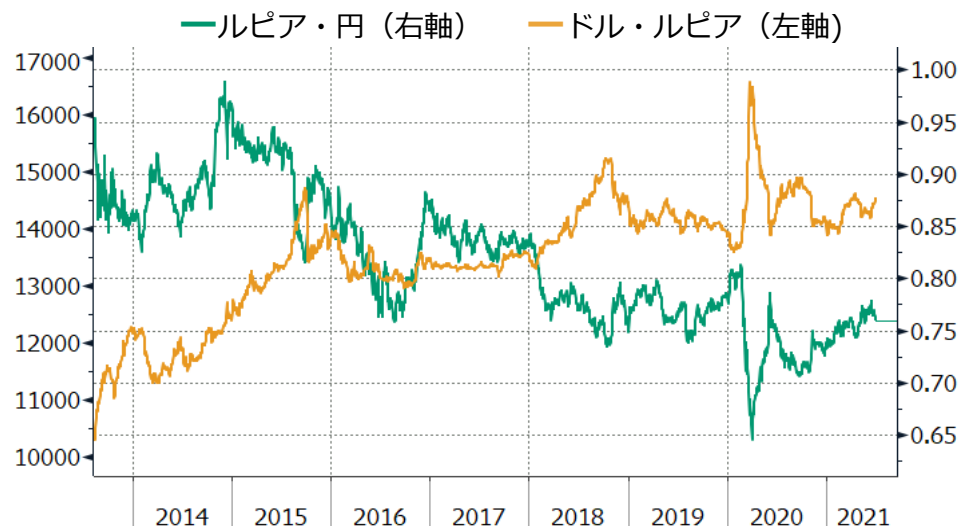
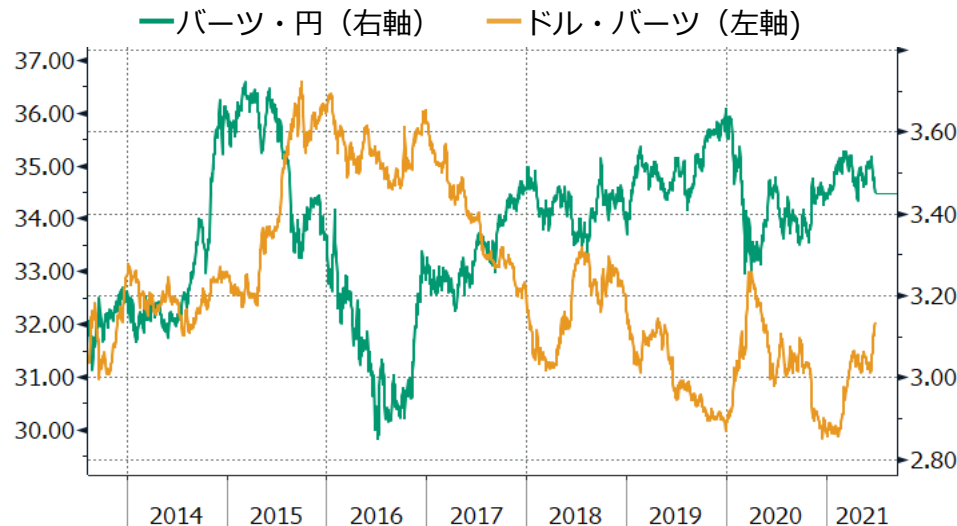
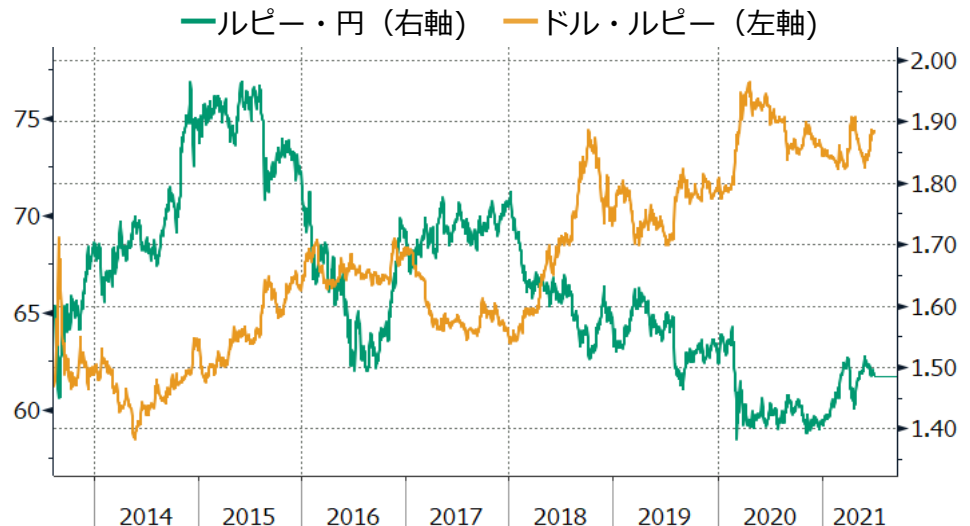
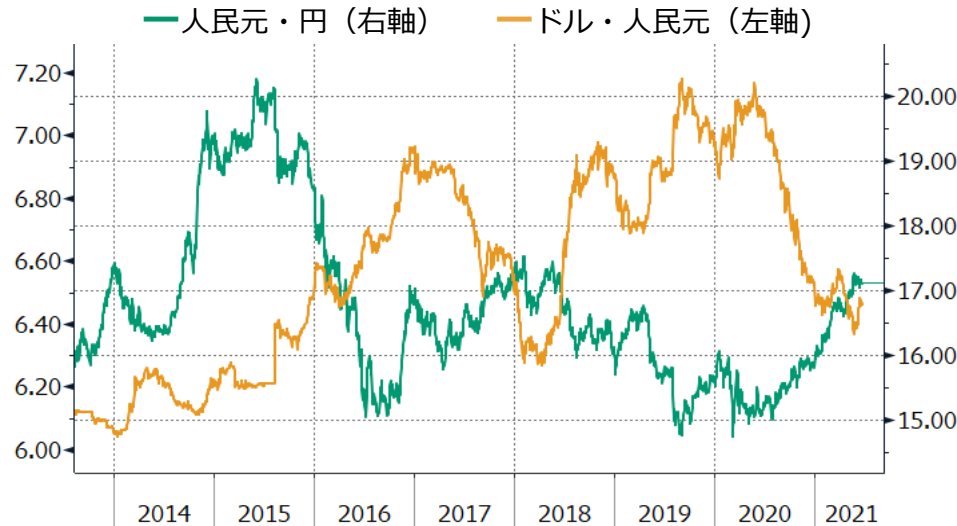
お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

◎ 注意事項をよくお読み下さい



りそな マーケットフラッシュマンスリー & アジア・新興国FXフラッシュ (2021年7月号)

◆ 新興国通貨チャート



◎ 注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

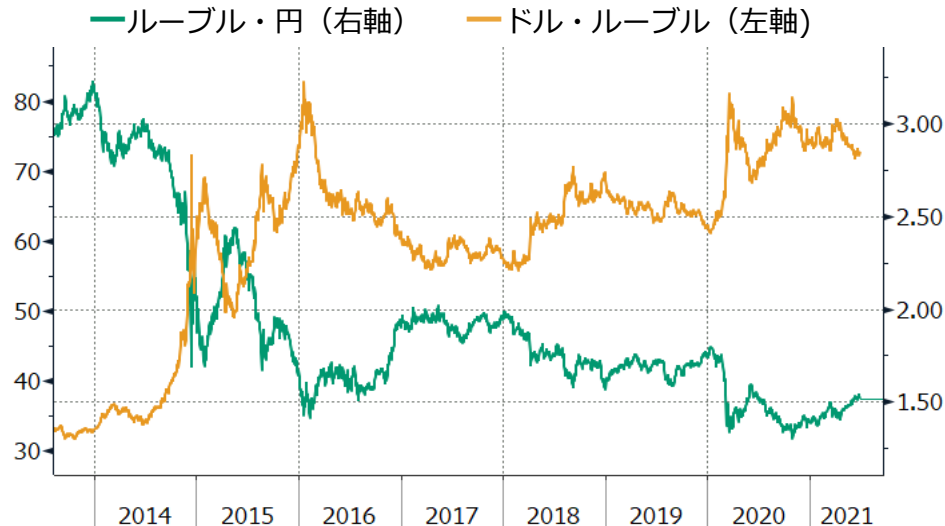
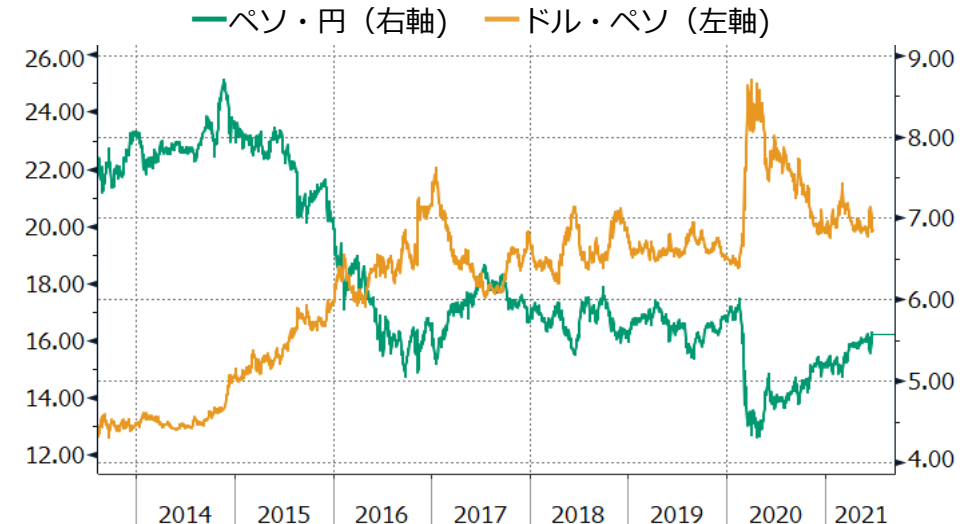
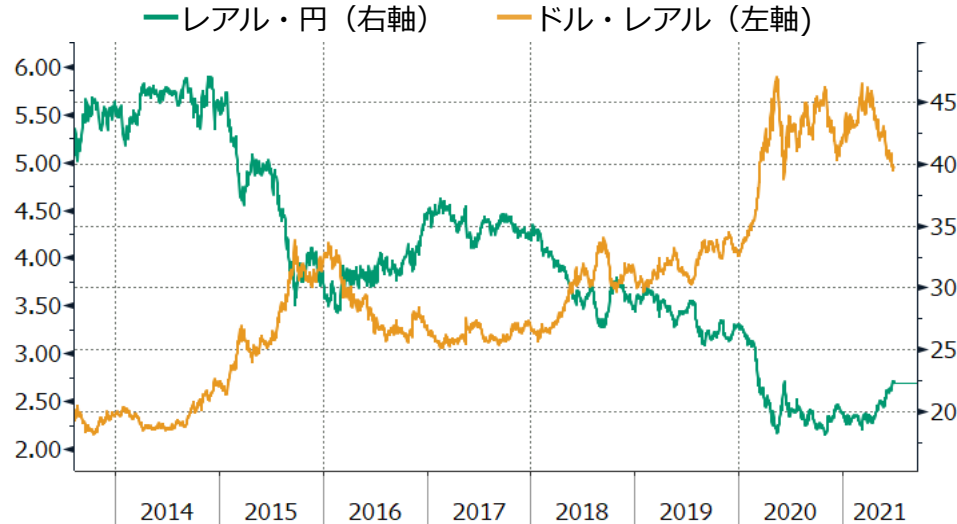
◎ 注意事項をよくお読み下さい



りそな マーケットフラッシュマンスリー & アジア・新興国FXフラッシュ

(2021年7月号)

◆ 新興国通貨チャート



◎ 注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

◎ 注意事項をよくお読み下さい



りそな マーケットフラッシュマンスリー & アジア・新興国FXフラッシュ

(2021年7月号)

◆ 年間為替見通し

		2021年		2022年		ポイント
		7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	
ドル円	レンジ	106～112	107～113	108～115	110～120	9月にかけては円安基調一服でレンジ切り下げを予想。その後は米金融政策が意識され来年前半にかけ上昇。
	期末値	108	110	112	115	
ユーロドル	レンジ	1.14～1.21	1.12～1.19	1.11～1.18	1.10～1.16	欧州復興基金設立をきっかけとしたユーロへの期待はあるものの、米国や英国の中銀と比べてECBの緩和は長期化するとみられユーロの押下げ要因に。
	期末値	1.19	1.16	1.14	1.12	
ユーロ円	レンジ	125～133	124～133	124～133	122～132	
	期末値	129	128	128	128	
ポンドドル	レンジ	1.31～1.43	1.30～1.42	1.29～1.40	1.28～1.38	主要国のワクチン接種普及に伴い、足元の英国の高い普及率の優位性が薄れることに加え、原油価格の上昇一服などもポンドの上値を抑えたとみる。
	期末値	1.37	1.35	1.34	1.33	
ポンド円	レンジ	145～156	144～158	143～157	145～158	
	期末値	148	149	150	152	
ドル人民元	レンジ	6.25～6.55	6.35～6.70	6.40～6.80	6.35～6.80	6月に高値を付けたのちは米金融政策面から徐々にドル高地合いに転じることでレンジを切り上げも、堅調な中国経済を背景に元安は限定的
	期末値	6.40	6.50	6.60	6.50	
人民元円	レンジ	16.5～17.5	16.4～17.5	16.4～17.5	16.8～18.0	
	期末値	16.9	16.9	17.0	17.5	
豪ドル円	レンジ	80.0～86.0	82.0～90.0	82.0～90.0	85.0～91.0	グローバルな景気回復から底堅い動きが継続。豪中銀のハト派姿勢転換が豪ドルを支える可能性。
	期末値	84.0	87.0	88.0	88.0	
タイバーツ円	レンジ	3.30～3.60	3.30～3.75	3.40～3.80	3.40～3.70	当面観光業を中心としたタイ経済の弱含みによりバーツは軟調となりやすいが、年末にかけ持ち直し
	期末値	3.40	3.50	3.57	3.55	

◎ 注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

◎注意事項をよくお読み下さい



りそな マーケットフラッシュマンスリー & アジア・新興国FXフラッシュ (2021年7月号)

◆ マーケットカレンダー

	日本	米国	その他
7/1(木)	10年債入札	6月ISM製造業景況指数	(中) 6月製造業PMI
7/2(金)		5月製造業受注 5月貿易収支 6月雇用統計	
7/4(日)		(独立記念日)	
7/5(月)			
7/6(火)	30年債入札 5月家計調査 5月毎月勤労統計(速報)	6月ISM非製造業景況指数	(豪) 準備銀行理事会 (独) 7月ZEW景気指数
7/7(水)		FOMC議事要旨	
7/8(木)	5年債入札 6月景気ウォッチャー調査		
7/9(金)			(中) 6月CPI G20財務相・中央銀行総裁会合(ベネチア)
7/12(月)	5月機械受注	10年債入札 3年債入札	(中) 6月貿易統計
7/13(火)	20年債入札	30年債入札 6月CPI	
7/14(水)		6月PPI 米地区連銀経済報告	
7/15(木)		7月NY連銀製造業景気指数 7月フィラデルフィア連銀製造業景気指数	(中) 4-6月期GDP (中) 6月生産・小売・投資
7/16(金)	黒田日銀総裁定例会見 日銀金融政策決定会合(結果発表)	6月小売売上高	

	日本	米国	その他
7/19(月)			
7/20(火)	6月消費者物価指数	6月住宅着工・許可件数	
7/21(水)	6月貿易統計 日銀金融政策決定会合議事要旨 (6/17~18開催分)	20年債入札	
7/22(木)	(海の日)	6月中古住宅販売	(欧) ECB定例理事会
7/23(金)	(スポーツの日)		(欧) 7月PMI(速報値)
7/26(月)		2年債入札 6月新築住宅販売	(独) 7月IFO企業景況感指数
7/27(火)	40年債入札	5年債入札 7月消費者信頼感指数	
7/28(水)		FOMC(結果発表)	
7/29(木)	2年債入札	4-6月期GDP(速報値) 7年債入札	
7/30(金)	6月鉱工業生産	6月個人所得・消費支出	
	6月住宅着工件数 6月労働力調査		
7/31(土)			(中) 7月PMI



◎注意事項
当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

◎ 注意事項をよくお読み下さい



りそな マーケットフラッシュマンスリー & アジア・新興国FXフラッシュ

(2021年7月号)

中国の動向-主要トピックス①

りそな銀行上海駐在員事務所

【6/4～6/10】

◎ 5月のCPIは1.3%上昇傾向変わらず

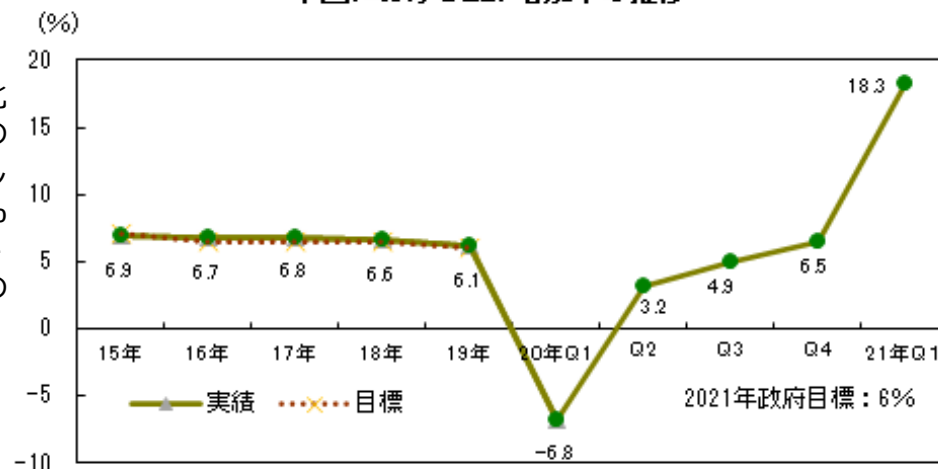
中国国家統計局は9日、5月の消費者物価指数（CPI）が前年同月比1.3%上昇したと発表した。上昇幅は0.4ポイントで3カ月連続の拡大となった。CPIの構成から見ると、8項目のうち7項目が上昇し、高い順では①交通・通信：5.5%、②教育・文化・娯楽：1.5%、③食品・たばこ・酒：0.8%、④住居：0.7%、⑤衣類：0.4%、⑥生活用品・サービス：0.4%、⑦医療保健：0.2%、⑧その他用品・サービス：▲0.9%となった。また、都市部では1.4%、農村部では1.1%上昇した。

【6/11～6/17】

◎ 1～5月主要経済指標堅調に推移

中国国家統計局の発表によると、1～5月の鉱工業生産額、固定資産投資、小売売上高は前年同期比それぞれ17.8%、15.4%、25.7%の成長となった。鉱工業生産額の伸び幅は1～4月と比べやや鈍化したものの、3指標が全て新型コロナウイルス流行前の19年同期比でプラス成長となり、回復傾向が続いている。また、5月の全国都市部調査失業率は前月比0.1ポイント減少の5.0%で、うち31の大都市は横ばいの5.2%だった。通年目標である「5.5%前後」の範囲内に収まっている。

中国におけるGDP増加率の推移



月別CPIの推移(消費者物価指数)



◎ 注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

◎注意事項をよくお読み下さい



りそな マーケットフラッシュマンスリー & アジア・新興国FXフラッシュ

(2021年7月号)

中国の動向-主要トピックス②

りそな銀行上海駐在員事務所

【6/18 ~ 6/24】

◎全国排出権取引市場取引開始へ

中国全土を対象とした温室効果ガスの排出権取引市場は6月末に始動する見通し。同市場は40億トン以上の排出量をカバーすることで、世界最大の排出権取引市場になるとメディアが報道されている。取引拠点については明確に公表されていないが、上海市に置く可能性が高いと国営メディアである新華社が伝えた。また、中国政府が2011年から排出権取引モデル都市として指定された7地域（北京、天津、上海、重慶、湖北省、広東省、深セン）における既存市場は継続運営する模様。

【6/18~6/24】

◎2020年度の対中海外直接投資世界2位

国連貿易開発会議が21日に発表した海外直接投資（FDI）数値によると、2020年の中国向け投資額は前年比6%増の1,490億米ドル（約16兆5,000億円）だった。国・地域別では米国に次ぎ、2位となった。また、アジア向けのFDIは前年比4%増の5,350億米ドルで、地域別で世界唯一のプラス成長となった。世界全体は前年比35%減の9,990億米ドルだった。なお、同機構は2021年の世界のFDIが前年比10~15%増と予測した。

主要経済指標

<月次データ>

項目	単位	2020/7	2020/8	2020/9	2020/10	2020/11	2020/12	2021/1	2021/2	2021/3	2021/4	2021/5
実質GDP成長率	%	-	-	4.9	-	-	6.5	-	-	18.3	-	-
消費者物価上昇率	%	2.7	2.4	1.7	0.5	-0.5	0.2	-0.3	-0.2	0.4	0.9	1.3
都市部調査失業率	%	5.7	5.6	5.4	5.3	5.2	5.2	-	5.5	5.3	5.1	5.0
輸出額	10億ドル	236.8	234.4	238.6	236.3	266.9	281.8	263.9	204.8	241.1	263.9	263.9
輸入額	10億ドル	176.4	177.1	203.0	178.7	192.2	204.8	199.7	167.5	227.5	221.1	218.4
経常収支	100万ドル	-	-	150,215	-	-	273,980	-	-	69,446	-	-
外貨準備高	10億ドル	3,154.4	3,164.6	3,142.6	3,128.0	3,178.5	3,216.5	3,210.7	3,205.0	3,170.0	3,198.2	3,221.8
主要政策金利	%	4.35	4.35	4.35	4.35	4.35	4.35	4.35	4.35	4.35	4.35	4.35
対ドル為替レート	人民元	7.01	6.93	6.81	6.70	6.60	6.54	6.47	6.46	6.51	6.52	6.42

※ 対ドル為替レート：期末又は月末値 主要政策金利：1年物貸出基準金利

出所：Bloomberg

◎注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

© 注意事項をよくお読み下さい



りそな マーケットフラッシュマンスリー & アジア・新興国FXフラッシュ

(2021年7月号)

“上海下午茶”（上海からティータイム）

りそな銀行上海駐在員事務所

○野生象ファミリーについて

中国雲南省に現れた野生アジアゾウのファミリーは最近、SNSなどでグローバルな話題となっています。

この巨大なる一族は、昨年年初に雲南省の南に位置するシーサンパンナという自然保護区から北上し始め、今までの移動距離は、大阪から東京までと同程度の500キロを超えている状況です。

地元のメディアによると、9日時点までゾウファミリー移動中の地元住民の安全を保護する為に、警察官など緊急対応人員1,279名を派遣し、緊急対応車両329台、ドローン11機を投入しました。また、移動路線の周辺にある農村部の住人1万1,071人を避難させ、ゾウたちが市街地に入らないように2.1トンの果物など食べ物を投じて誘導しようとしているようです。

また、ドローンが撮った数枚のゾウファミリーの昼寝写真がネット上で大人気を呼び、「野生ゾウはこんなにそろって寝るんだ」と、初めてゾウの寝姿をみて感動した人々の書込みが非常に多かったです。

このゾウファミリーはなぜ北上したのか、どこまで北進していくか、いつ自然保護区に戻るかについて、専門家らの見解が一致していません。でも、住民もゾウも無事で何よりです。

上海におけるコロナワクチン事情

上海市疫病コントロールセンターのデータによると、今月20日まで全市における累計接種件数は32,198,152件に上りました。

接種を受けた総人数は18,718,927人で、その中で接種を完了した人数は約75%（13,960,717人）を占めることが分かりました。うち2回の接種が必要となる不活化ワクチンと1回の接種で済むmRNAワクチンの利用者の割合がそれぞれ96.6%と3.4%となっていることも判明しました。2020年末時点の上海人口数（2,487.1万）をベースにして計算する場合、接種済の人口数は全体の約56.1%を占める状況です。

政府は接種完了率を上げるために、景品を配布したり、チラシを配ったり、電話・メールで知らせたり、ドアまで来て説明してくれたりするなど様々な手を使って市民がワクチンを受けるよう工夫してきましたが、上半期がもうすぐ終わるせいか、最近家の近くの接種施設では、2回目の接種者を対象に168元のクーポンを配るようになりました。

接種率を向上させるため、戦略も進化してきたなと思うと同時に、何一つもらわなかった私としてはすこし損したと感じてしまいました。



© 注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

◎注意事項をよくお読み下さい



りそな マーケットフラッシュマンスリー & アジア・新興国FXフラッシュ

(2021年7月号)

タイの景気動向

りそな銀行バンコック駐在員事務所

◆タイ中央銀行が発表した2021年4月の主要経済指標（速報値）によれば、タイ経済は新型コロナウイルス感染拡大第3波の影響で、個人消費指数は前月比4.3%減。民間投資指数は同3.1%低下。機械・設備投資は減少したが、建設部門の投資は改善した。工業生産指数は同0.1%低下した。公共投資と輸出の拡大は経済の下支え要因になっている。

◆タイ商務省によると、2021年4月の輸出額は前年同月比13.1%増の214億2,927万米ドルと、3カ月連続で200億米ドルを上回った。農産物・加工品の輸出は前年同月比7.3%増。工業製品は同12.4%増と、2カ月連続のプラス成長。自動車・同部品、二輪車・同部品、ゴム製品、コンピューター・同部品等の輸出は拡大した。電話機・テレビ受像機、海産物等は減少した。市場別では、中国向けの輸出額は最多、21.9%増。米国、日本、EU、南アジア、中南米、CLMV諸国（カンボジア、ラオス、ミャンマー、ベトナム）向けも増加したが、東南アジア諸国連合向けは減少した。4月の輸入額は同29.8%増の212億4,679万米ドル。この結果、貿易収支は1億8,248万米ドルの黒字となった。一方、4月の対米ドル・パーツ相場は平均で1米ドル＝

31.33パーツで、前月の30.78パーツ比パーツ安だった。

◆タイ国家経済社会開発委員会（NESDC）の発表によると、2021年第1四半期（1～3月）の国内総生産（GDP）成長率は前年同期比2.6%減となった。マイナス成長は5四半期連続だった。2021年通年のGDP成長率予測を前年比2.5～3.5%増（2月時点）から1.5～2.5%減と下方修正した。

◆タイ商務省が発表した5月の一般消費者物価指数（CPI）は、前年同月比2.44%上昇し、2カ月連続のプラス成長。食品・飲料は同0.13%上昇した。非食品は同3.89%上昇。運輸・通信、エネルギーの上昇が挙げられる。また、今年1～5月のCPI平均値は前年同期比0.83%上昇した。

主要経済指標

<月次データ>

項目	単位	2020/7	2020/8	2020/9	2020/10	2020/11	2020/12	2021/1	2021/2	2021/3	2021/4	2021/5
実質GDP成長率	%	-	-	-6.4	-	-	-4.2	-	-	-2.6	-	-
消費者物価上昇率	%	-1.0	-0.5	-0.7	-0.5	-0.4	-0.3	-0.3	-1.2	-0.1	3.4	2.4
失業率	%	2.2	1.9	1.8	2.1	2.0	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	-
輸出額	100万ドル	18,819	20,212	19,621	19,377	18,933	20,083	19,707	20,219	24,222	21,429	-
輸入額	100万ドル	15,476	15,863	17,391	17,330	18,880	19,119	19,909	20,212	23,512	21,247	-
経常収支	100万ドル	1,599	3,545	1,440	674	-1,294	-829	-673	-1,071	-806	-1,298	-
外貨準備高	10億ドル	250.4	254.5	251.1	248.5	253.5	258.1	256.8	253.9	245.5	250.4	251.8
主要政策金利	%	0.50	0.50	0.50	0.50	0.50	0.50	0.50	0.50	0.50	0.50	0.50
対ドル為替レート	パーツ	31.4	31.2	31.4	31.3	30.5	30.1	30.0	30.0	30.8	31.3	31.3

※ 対ドル為替レート：期末又は月末値 主要政策金利：タイ翌日物レボ金利

出所：Bloomberg

◎注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

◎注意事項をよくお読み下さい



りそな マーケットフラッシュマンスリー & アジア・新興国FXフラッシュ

(2021年7月号)

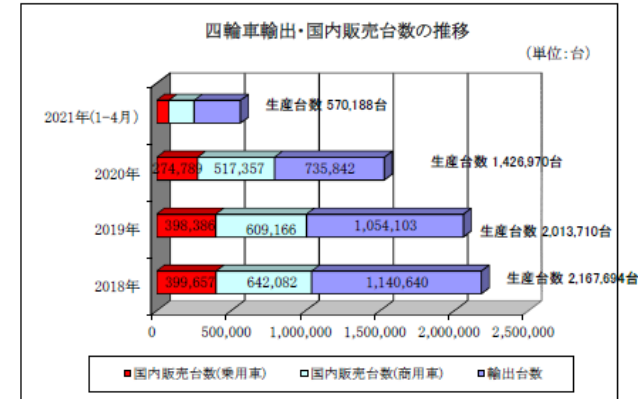
タイにおける自動車産業の動向

りそな銀行バンコック駐在員事務所

タイにおける自動車産業の動向

出所:タイ工業連盟 (FTI)

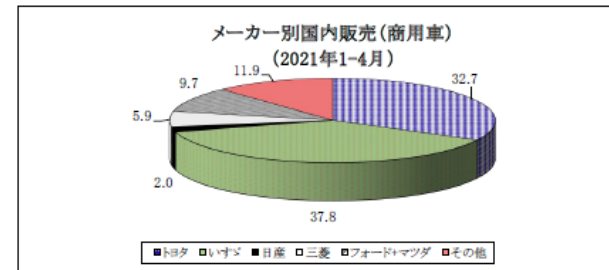
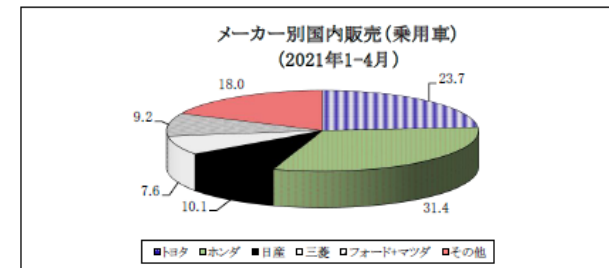
		2018年	2019年	2020年	2021年 (1-4月)	前年同期比 (%)	4月	
【台数】		(台)						
四輪	生産台数	乗用車	884,609	804,340	542,437	202,863	111.1	33,17
		商用車	1,283,085	1,209,370	884,533	367,325	124.2	71,18
		合計	2,167,694	2,013,710	1,426,970	570,188	119.2	104,35
	国内販売台数	乗用車	399,657	398,386	274,789	82,244	94.3	16,98
		商用車	642,082	609,166	517,357	170,025	118.6	41,14
		合計	1,041,739	1,007,552	792,146	252,269	109.6	58,13
	輸出台数		1,140,640	1,054,103	735,842	310,988	114.9	52,88
二輪	生産台数	2,063,076	1,948,480	1,615,319	647,787	120.0	131,42	
	国内販売台数	1,788,323	1,718,587	1,516,096	569,293	111.7	133,85	
	輸出台数	886,275	948,839	727,152	328,983	114.1	59,51	
	【完成車輸出金額】	(百万バーツ)						
四輪		594,810	545,968	410,912	173,013	122.5	30,07	
二輪		61,654	69,933	85,802	29,253	123.0	4,56	



【メーカー別国内販売台数】

出所: トヨタ自動車

	2018年	シェア (%)	2019年	シェア (%)	2020年	シェア (%)	2021年 (1-4月)	前年同期比 (%)	シェア (%)	4月
トヨタ	乗用車	112,394	28.1	117,708	29.5	68,152	24.8	19,465	90.3	4,956
	商用車	202,719	31.6	214,672	35.2	176,164	34.1	55,616	121.8	14,194
	合計	315,113	30.2	332,380	33.0	244,316	30.8	75,081	111.7	19,150
いすゞ	乗用車	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0
	商用車	177,864	27.7	168,215	27.6	181,194	35.0	64,201	130.3	37.8
	合計	177,864	17.1	168,215	16.7	181,194	22.9	64,201	130.3	25.4
ホンダ	乗用車	95,793	24.0	96,154	24.1	77,419	28.2	25,784	98.5	4,437
	商用車	32,497	5.1	29,679	4.9	15,622	3.0	4,594	89.4	2.7
	合計	128,290	12.3	125,833	12.5	93,041	11.7	30,378	97.0	5.419
日産	乗用車	43,991	11.0	35,809	9.0	27,120	9.9	8,292	84.9	10.1
	商用車	28,403	4.4	28,605	4.7	17,438	3.4	3,431	61.9	2.0
	合計	72,394	6.9	64,414	6.4	44,558	5.6	11,723	76.6	4.6
三菱	乗用車	31,594	7.9	38,879	9.8	22,363	8.1	6,245	78.4	7.6
	商用車	52,966	8.2	49,365	8.1	35,046	6.8	9,947	90.2	5.9
	合計	84,560	8.1	88,244	8.8	57,409	7.2	16,192	86.3	6.4
その他	乗用車	115,885	29.0	109,836	27.6	79,735	29.0	22,458	103.3	27.2
	商用車	147,633	23.0	118,630	19.5	91,893	17.7	32,236	122.6	18.9
	合計	263,518	25.4	228,466	22.7	171,628	21.8	54,694	113.9	21.8
合計	乗用車	399,657	100.0	398,386	100.0	274,789	100.0	82,244	94.3	100.0
	商用車	642,082	100.0	609,166	100.0	517,357	100.0	170,025	118.6	100.0
	合計	1,041,739	100.0	1,007,552	100.0	792,146	100.0	252,269	109.6	100.0



◎注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。